

脊髄損傷後の痙性のマネジメント：現在のテクニックと将来の方向

Management of Spasticity After Spinal Cord Injury: Current Techniques and Future Directions

【要約】

痙性とは自分の意思とは関係なく起こる筋肉の収縮のことです。

一般的に80%以上の脊髄損傷者が痙性に悩まされているそうです。

痙性が強すぎて車椅子から落ちそうになったり、日常生活に支障が出てしまう場合もあります。また、痙性が拘縮などの二次障害を引き起こすのも確かです。

痙性のタイプは個人によって異なり、出現する部位も様々です。

この論文では脊髄損傷後の痙性の原因となるメカニズムや痙性に対する現在の治療法、マネジメント方法や、薬の効果などが検討されています。

神経の興奮増加を抑える新しい治療方法なども考えられていますが、未だに決定的な方法がないのが現状です。今後も動物実験などで新しい方法を検討するそうです。

リサーチセンター 西部美由紀

【リサーチセンター便り】

『痙性っていいものなんですよ!!』

皆さんは痙性に対してネガティブな印象しか持っていないませんか？

私たちは、痙性を回復への大切な要素として考え、痙性を利用したトレーニングを行っているんです。一般的には痙性を抑える薬、手術、電気刺激などを利用して治療されています。

でも、J-Workoutは全く違います。

個人の状態に合わせて、痙性を自分の意思でコントロールする方法や、痙性を自分の意思で出したり抜いたりするトレーニングをしています。長期間に渡るJ-Workoutのトレーニングによって、痙性の状態が変わったという多くのクライアントさんの声を聞きます。薬を飲まなくても良くなった方もいます。

痙性を使ってトランスファーしているすごい頸髄損傷の方もいます。

そして、痙性を使って立ったり、歩いている方もいます。

皆さん！ 私たちと一緒に、痙性の常識を変えていきましょう！